日本人には自然の木や石、水、あらゆるものに神様が宿るという考えがあります。
そして目の前の現象だけに振り回されず、自分の良心に従い真心を尽くす生き方が自然に受け継がれています。祖先から受け継いだ宗教を超えた「おてんとうさまがみているよ」という子供でも分かる教え、
それは『古事記』の神々から学んだものでした。
日本で一番古く、国家が編纂した公的な歴史書を個人の表現でお伝えしています。

《高天原の〇ンコ事件その後》

高天原の神殿に〇ンコをおたれになったスサノオに
八百万の神々は怒り心頭で
『もうかんべんしてくださいよ～』
『アマテラス様の弟だからって
　　何してもよい訳ないですよー』
『だいいち〇ンコの始末、
　なんでオレがやらなきゃいけないんですか～』
って
アマテラスおねぇ様によってたかってモンクたらたら。

そこでアマテラスは
大嘗祭の担当の神様を集めて言いました。

ア：『あなた方の役割はなんですか？』

担：『アマテラス様の行われる大嘗祭が
　　滞りなく行われるお手伝いをすることです』

ア：『ならば、そのお仕事の内容に違いがあるだけで
　　竈（かまど）の受け持ちも便所の受け持ちも
　　みんな同じ尊さを持っているということですね。

　　自分の受け持ちばかりに目が行くと
　　ほかの仕事をしているヒトの気持ちをわすれ
　　たりおろそかになったりします。

　　誰しも気分が悪くなって吐くことは
　　避けられません。
　　止むおえず吐いたものを始末することも
　　尊い受け持ちの一つです。
　　自惚れたり慢心して
　　他の人々を軽んじてはいけませんと
　　皆さんが気付くために
　　スサノオは〇ンコを垂れたのです
　　お祀りを厳粛に清浄に滞りなく行いたい
　　と、形にこだわって人情（神情？）を疎かに
　　していませんでしたか？』

確かに･･･(´・ω・`；)ぁぁぁ
アマテラスの言葉にぐうの音も出ない神々でした

勿論、アマテラスはスサノオにもきっちりと話しました。（￣+ー￣）

スサノオもまた
自分の仕事だけに一生懸命になっていたので
他の神々に迷惑をかけたり誤解されたことに納得しました。

それでもつい、いきすぎちゃって
（懲りないなぁ～～）(ﾟOﾟ)＼(- -;
あちこちの神様たちと衝突を起こすたびにアマテラスは嫌な顔一つせずに治めに回りました。

ここでちょっと振り返り・・・

スサノオが最初に高天原にやってきたとき
アマテラスは超厳しい態度で迎えました
（千本の矢を持って太ももまで地面に埋まるほど踏み込んですっごい雄叫びあげて）＼＼¥ϙ(ˆˊ)///ｼ／／
だけど今回の事件では腹も立てずに話し合いをしています。

親が子どもを育てる時、
駄々をこねる子どもに対しては厳しい態度を示さなければいけません。
反対に子どもが好奇心を持って成長しようとしたときの失敗は咎めない態度で見守ることが必要です。
親として子どもの状態を判断して
咎めるのか咎めないのか
また咎めない場合も見て見ぬふりをするのではなく
ちゃんと子供の行為を見て気持ちを聞いて
直してやることが大切ですって古事記は教えてくれています
古事記めちゃめちゃ深いわー(*≧∀≦*)

だけどついにアマテラスおねぃ様の堪忍袋の緒が切れる時が来るのです
スサノオ何やらかした?!!((((；ﾟДﾟ))))))

このことは新年号で～

きじこでした～　　(⌒▽⌒)ﾉ"ﾏﾀﾈｰ!!

信じる？信じない？文字の持つ本当の意味

漢字には旧字があってそれぞれに意味がありましたが、戦後今の文字に変えられた歴史があります
その一部をご紹介します

旧字体	新字体
和多志	私（「小さく取り囲む事を示す文字」＋「穂先が先端に垂れかかる稲の象形」⇒私）
わたしを表す字として戦前は普通に使われていたそうです。人は多くの願い事や，志を持っている。それが全部集まって自分というものができあがっている。その多くの願いや志を調和させ，自分なりに精一杯均衡を保たせて〝多くの意志を和したもの〟という意味。	「穂先が先端に垂れかかる稲」の象形である「禾」に、それを〝小さく取り囲むこと〟を示す「厶」の文字が組み合わさった文字。分離意識を宿す文字で所有の概念も含まれています。のぎへんには実るという意味がありますが「厶」には「もうない」「なくなった」もしくは「ない」の意味があり「実らない」を表しています
氣	気
氣の上の气という部分は天地を表していて气の中にある米は、八方に開いている姿をかたどったものであり、天地の八方に生命エネルギーを放出していく状態を表わしています。	气にメというのは、天地のエネルギーを閉じ込める意味があり、人間に備わった潜在能力の封印という意味もあります
學（臼（やね）＋爻（こ）＋冖（こども）⇒學）	学
「へん」のところが複雑な書体になっていて、「X」が上下に二段並んでいますが、これは人の手で、両側にあるのが大人たちです。つまり「學」という字は、複数の大人が、みんなでひとりの子を立派な人にするために「引っ張り上げる」という意味を持つ漢字です。	「学」になると、むしろ「子」が主体で、自力で学ぶことが「学」というように錯覚します。教育者の側が子のレベルを引っ張り上げるというのが、もともとの「學」、子が自力で学ぶというのが、新字体の「学」です。学ぶ主体が逆になっています。

禮	子ども
「禮」は「示（しめす）へん」に「豊（ゆた）か」です。つまり、おじぎをしたり、おれいを言ったりするのは、相手にわかるように、はっきりと豊かにそれを体の動きで示す意味の字です。	「供」という漢字がふさわしくないとする理由は、お供（とも）」「供奉（グブ）」などというように、従属や隷属を意味するから、あるいは「〇〇ども」と複数の集団をさげすんで呼ぶいい方に使うからであるのも理由ですが、供には供養の意味があり、送る仏の意味があるからです。

他にもまだまだたくさんありますが・・・・・

國⇒国	醫⇒医	教⇒教
體⇒体	覺⇒覚	榮⇒栄
眞⇒真	戀⇒恋	榮⇒栄
靈⇒霊	佛⇒仏	圓⇒円
鹽⇒塩	壽⇒寿	廣⇒広
莫迦⇒馬鹿	傳える⇒伝える	神運字⇒漢字

ご挨拶

平成30年も残すところあと僅かとなりました。
本年中の御愛顧に心よりお礼申し上げます。
来年も本年同様にご指導ご鞭撻のほど、どうぞ宜しくお願い致します。
皆様方におかれましてもご健康に留意されまして、新しいが明るく輝く幸多い年となりますようお祈り申し上げます。

（有）ソーラープロジェクト大社　　社員一同